

平成31年度（2019年度）新規研究課題

課題番号：8

課題名：新たな品種等の導入による低コスト造林技術の確立

研究期間：2019～2024年度

研究担当：林業技術部 林業研究室

1 研究の背景

- ・戦後造成されたスギ・ヒノキ人工林は成熟し、本格的に利用可能な段階を迎えており、今後、伐採・利用される人工林の増大が見込まれる。
- ・このようななか、森林の多面的機能を維持・発揮させつつ、森林資源の循環利用を図るには、伐採後の再造林の確実な実施が必要となるが、その推進には森林所有者への収益還元率の向上が不可欠であり、造林から伐採までのトータルコストの低減による低コスト施業体系の確立が急がれる。
- ・また、国民の3割が罹患し社会問題化している「花粉症」対策として、花粉症対策苗木による再造林の推進が求められている。

2 目的

再造林コストの低減が可能な新品種や樹種を導入した低コスト造林技術を確立する。

- ① スギ・ヒノキ:従来品種よりも特に成長に優れ、かつ花粉量が少ない“特定母樹”由来品種の導入による施業体系の確立
- ② 広葉樹等:従来造林樹種よりも特に成長に優れ、かつ低密度植栽により短期間で収穫が可能な“早生樹”の導入による施業体系の確立

3 研究内容

再造林コストの低減に向け、従来よりも特に成長に優れた品種や樹種の植栽試験及び保育施業の省力化に関する試験を実施する。

- ① スギ・ヒノキ（特定母樹等）
低密度植栽試験及び下刈省力化試験（下刈回数の削減）の実施
- ② 広葉樹等（早生樹）
植栽試験及び樹種毎に必要な保育施業の確認・検証

4 研究のポイント

新たな品種等の導入による低コスト施業体系を確立し、普及・定着することで、植栽から保育までのトータルコストの低減による再造林の推進効果が期待される。

5 普及に向けたスキーム

- ・研究期間中、試験地を活用した現地検討会等を開催し、現場技能者の資質向上を図る。
- ・研究成果は、普及・定着を図るため、研修と連携し、研修カリキュラムに組み込む。
- ・研究で得られた新技術は、地域林業を主導する行政職員や中核経営体職員等を対象とした「林業指導者の育成」にも活用する。

新たな品種等の導入による 低コスト再造林技術の確立

研究期間：2019～2024年度

研究担当：林業技術部 林業研究室

【目的】

植栽コストの低減が可能な新品种や樹種を導入し、
低コスト施業体系を確立する。

【研究内容】

○低コスト再造林技術の確立

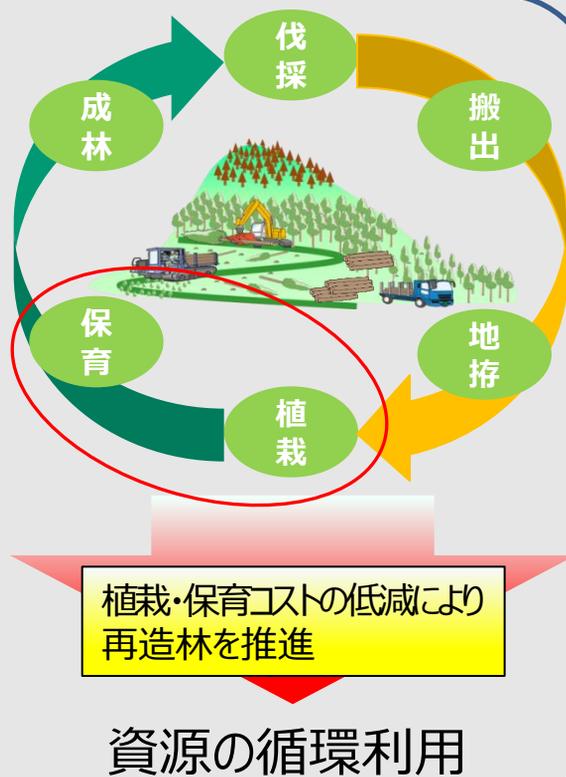
1 スギ・ヒノキ新品种の導入

従来の品種よりも成長に優れ、かつ花粉量が
少ない“特定母樹”を導入した施業体系の確立

植栽密度・下刈回数を低減

2 広葉樹等に新たな樹種を導入

従来の造林樹種よりも成長に優れ、かつ低密度
植栽により短期間で収穫可能な“早生樹”を
導入した施業体系の確立



【到達目標】

新品种等を導入し低コスト再造林技術を確立
植栽（再造林）・保育コスト **30%**削減

人工林伐採後の再造林の推進